

6-1-1 補陀洛山鉄舟禪寺由来

鉄舟寺はもと久能寺といい、今の久能山にあって、およそ 1,300 年の昔、推古天皇の時、国主久能忠仁公によって創立せられ、奈良朝の初期行基菩薩が中興せられた。当時坊中 360、衆徒 1,500 人もあり、豪盛を誇っていた。また鎌倉時代以後の貴重な文献、仏像、仏画、納経、什器等数々の宝物が今日まで寺に残されてある。

降って武田信玄が今川氏を攻略し駿河に入るに及んで久能の險要に築城することとなり、天正 3 年（今から 360 年前）現在の場所に移されたのである。

後武田氏は滅ぼされたが徳川幕府も名刹久能寺を愛護し御朱印地を賜った。世が改まり明治御一新となるや、その混乱の中で長く栄えた久能寺も次第に散乱し、住職もない廃寺となってしまったのである。

幕末の俊傑山岡鉄舟はこれを惜しみ再興を發願して、仮本堂に今川貞山師を迎えて開山とし広く寄進を募ることにした。明治 16 年、鉄舟 48 歳の時である。ところが鉄舟は明治 21 年 7 月、53 歳でこの世を去り鉄舟寺の完成を見ることができなかった。

清水の魚商芝野栄七翁は元來信仰の篤い人であったので鉄舟の意志をつぎ幾多の困難を乗り越えて、明治 43 年 3 月鉄舟寺の完成を果たしたのである。

本堂前富士に向かって鉄舟居士の歌碑が建ち、「晴れてよし曇りてもよし不二の山もとの姿はかはらざりけり」と一しお趣をそえている。

奉納 社団法人 送電線建設技術研究会

清水市説明板より